

HiPeR 主催 愛媛ワークショップ

「四国外帯の地質構造と東アジアの中生代プレート収斂境界のテクトニクス」(報告)

平成 30 年 7 月 28～29 日に HiPeR 主催の表記ワークショップ(世話人: 広島大学・早坂康隆)が開催された。

1) ミニシンポジウム

28 日 10:00～13:00、愛媛大学理学部 S12 講義室にてミニシンポジウムが開催され、14 名の参加で下記講演と活発な討論がなされた。

- ・早坂康隆(広島大): 四国外帯の地体構造と東アジアプレート収斂境界のテクトニクス
- ・大橋聖和(山口大): 四国西部四万十帯北帯に発達する断層帯の形成過程と周辺地体構造
- ・川口健太(広島大): 三波川帯北縁部の変斑れい岩類は三波川沈み込み帯の hanging wall か
- ・小松正幸(愛媛大): 四国西部三波川帯南翼の“中央構造線”
- ・鶴我佳代子(東京海洋大): 宇和海、浅海における地震探査の期待と課題
- ・伊藤谷生(明治大): ルートマップ+岩石資料データ(密度、P 波速度)による地震波トレース作成



ミニシンポジウム

2) 現地討論会

28日、14:30~17:00には応用地質株式会社四国支社の協力を得て、八幡浜市海岸部の三波川帯泥質片岩、御荷鉾帯角閃岩、御荷鉾帯苦鉄質片岩の露頭でハンディサイズを用いたP波速度の測定が行われた。(参加者12名)

29日は8:30から西予市の真穴帯を中心に現地討論会が開催され、露頭を前に活発な討論がなされたが、台風12号の接近で、予定より早い10:30頃の終了となった(参加者11名)。



応用地質株式会社のハンディサイズを用いた御荷鉾帯苦鉄質片岩のP波速度の測定